

第1回伊佐市総合振興計画審議会

日 時：平成30年8月27日（月）14:00

場 所：大口庁舎2F 大会議室

1 開会

2 辞令交付

3 会長あいさつ

4 議 事

まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び意見交換

(1) 地方創生推進交付金について

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

5 その他

6 閉会

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業取組みについて

【平成 29 年度】

◆ 地方創生推進交付金（国：50%、市町 50%）

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業 <14,936 千円>

総事業費 29,872 千円（伊佐市 14,936 千円、さつま町 14,936 千円）※ 広域連携事業
： 負担（国 14,936 千円、伊佐市 7,468 千円、さつま町 7,468 千円）

○ イベント経費 4,000 千円

- ・ 大阪府下で伊佐・さつまの特産品を販売する物産展 2,509 千円
- ・ 川内川流域に植樹を進める「やさしい故郷づくり」キックオフイベント 1,491 千円

○ プロモーション経費 4,000 千円

- ・ 川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション 1,168 千円
- ・ グランドビジョンの作成 1,000 千円
- ・ サイト運営管理費 1,188 千円
- ・ モンベル・フレンドエリア年会費 644 千円

○ 人材育成セミナー経費 4,000 千円

- ・ 6次産業化の推進 2,000 千円
- ・ やさしい取組みの実践・支援 999 千円
- ・ 起業・創業の相談・支援 1,001 千円

○ 調査・コンサルティング経費 3,000 千円

- ・ 川内川流域の観光マーケティング調査 1,000 千円
- ・ コンサルティング業務委託 2,000 千円

○ 上記事業実施のためのDMOスタッフ人件費 10,000 千円

○ DMO事務所運営経費 4,872 千円

曾木の滝・大鶴湖・川内川を活用した自然体験型DMO観光推進事業

実績報告書

株式会社やさしいまち

作成：株式会社セルビス

記載方法

実施日 実施内容（実施場所）

※1：要素事業名（事業費対象）

※2：要素事業名（事業費対象外）

（ただし、1事業につき、複数の目的を含む場合は、事業費対象の枠に関わらず目的となる名目を記載している。）

記

平成29年6月3日～4日 モンベルフレンドフェア内のプロモーション（宮城県仙台市）

カヌーの聖地として川内川のカヌー体験を売り出すために、提携するモンベルのイベントのカヌー・カヤックのコーナーに「カヌーのまち」をアピールする告知を出した。

※1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成29年6月5日～7日 第二回ビジネスマッチングツアー実施（伊佐市、さつま町）

株式会社やさしいまち、セルビスグループおよびセルビスグループ共栄会 20 余社の経営者が、伊佐・さつまの現状を視察し、行政を含むDMO協議会等の各種団体、伊佐・さつまの事業者とのビジネスマッチングの機会を創出した。

起業・創業のサポートにむけてだけではなく、当エリアの魅力の発掘・創出、商品開発（6 次化商品、旅行商品）なども目的としたツアーとして実施した。

※1：6次産業化推進のための支援、ビジネスマッチング

※1：起業創業の相談支援

※2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成29年6月23日～24日 飛騨視察（岐阜県飛騨市）

「薬草を用いた健康まちづくり」の先行事例である、岐阜県飛騨市の取り組みの視察を行った。身体にやさしい取り組みのベンチマークとして視察研究し、関係づくりをすることができた。やさしいまちとしての事業進行計画の礎として実施した。

※1：やさしい取り組みの実践・支援

※2：グランドビジョン作成

平成 29 年 7 月 20 日 インバウンド・ジャパン 2017 参加（東京都江東区）

DMOとして今後の観光商品作成、特にインバウンドを対象にした観光商品からプロモーションまでを行う上でノウハウや最新情報の収集、関係機関との連携体制構築、観光戦略策定のために、本イベントに参加した。またスポーツを活かしたまちづくりに向けて 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン申請に向けた会合を行った。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 7 月 30 日 第 14 回自助・共助の伝承 川原の魚つかみどり大会への参加と協力（さつま町）

NPO法人 ひっ翔べ！奥さつま探検隊主催の本イベントに参加協力することで、川内川を活用した体験型の観光の醸成のための調査を行った。長年続く地元にとって非常に有意義なイベントではあるが、実際にツーリズム商品の開発となると課題が多いため、今後の展開を検討するうえで非常に収穫の多いものであった。

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 7 月 31 日 野草薬草研究会実施（大阪府堺市）

前項の視察により、飛騨市の取り組みを参考として、野草薬草を用いたまちづくりを進める方針を立てた。そこで、野草薬草の活かし方、商品開発に向けて、まちづくりへの取り入れ方などを学ぶために、飛騨市の方を講師として迎え、研究会（セミナー）を開催した。

※ 1：やさしい取り組みの実践・支援

※ 2：6 次産業化の推進

平成 29 年 9 月 2 日～3 日 モンベルフレンドフェア内のプロモーション（横浜市）

カヌーの聖地として川内川のカヌー体験を売り出すために、提携するモンベルのイベントのカヌー・カヤックのコーナーに「カヌーのまち」をアピールする告知を出した。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 9 月 26 日 特産品フェア博多駅前参加（福岡市）

特産品フェアに参加し、九州の大都市にて、伊佐・さつまの特産品のアピールと、観光地の PR をした。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 10 月 1 日 飛騨市視察（岐阜県飛騨市）

野草・薬草をつかった健康まちづくりの先行事例である飛騨市と情報交換し、連携構築を図るために、飛騨市への視察を行った。なお、今回はDMOの事業を推進させるために、行政も加わった視察とし、飛騨市長、伊佐市職員、さつま町職員を入れて 4 者の関係構築を行った。

※ 2：グランドビジョン作成

※ 1：やさしい取り組みの実践・支援

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 10 月 21 日 第 21 回 RKB ラジオまつり参加（福岡市）

九州の一大イベントに参加し、伊佐市・さつま町の観光マーケティングを行い、また当エリアの観光資源のアピールのために参加した。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 10 月 28 日～29 日 モンベルフレンドフェア内のプロモーション（大阪市）

カヌーの聖地として川内川のカヌー体験を売り出すために、提携するモンベルのイベントのカヌー・カヤックのコーナーに「カヌーのまち」をアピールする告知を出した。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 10 月 31 日 飛騨市、伊佐・さつま交流会実施（伊佐市、さつま町）

やさしいまちが実施する身体にやさしい取り組みを、飛騨市の協力を得て、より効果的にまちづくりに表すために、伊佐市・さつま町に来てもらい、現地を見てもらう機会を創出した。その結果をウェルネスツーリズムに繋げるためのヒントとすることや、伊佐・さつまの方々が薬草について学ぶことが出来るようセミナーを開催した。このことは、やさしいまちの取り組みの浸透に寄与するものである。

※ 2：グランドビジョン作成

※ 1：やさしい取り組みの実践・支援

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 11 月 11 日 第 2 回世界一のやさしい市開催（大阪府堺市）

伊佐・さつまの特産品や加工品を、製造者自らが都市圏の消費者と対面販売をする物産展「やさしい市」を開催。本取組みは、伊佐・さつまの事業者の稼ぐ力を向上させることを目的とし「商人を育てる」というテーマで実施。伊佐市・さつま町から 9 名が参加した。また、参加は出来ずとも商品の出品をした事業者もあり、6 次化にむけた商品開発、マーケティングの機会としても本イベントを提供した。また同エリアのプロモーションも行っている。

※ 1：大阪府下で伊佐・さつまの特産品を販売する物産展

※ 2：起業、創業の相談や支援

※ 2：6 次産業化の推進

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 29 年 11 月 17 日～19 日 薬草フェスティバル視察（岐阜県飛騨市）

「薬草による地域おこし」を推進する“からだにやさしい取り組み”の事業進行のために視察を行った。これには、今後の伊佐・さつまでの展開にむけて事業進行に関わるさつま町の NPO 法人与同行した。さらには、その後に進める「やさしいまちづくり キックオフイベント」に活かすこと、伊佐市・さつま町との互惠関係構築の目的を含む。

※ 1：やさしい取り組みの実践・支援

※ 2：グランドビジョン作成

平成 29 年 11 月 28 日 第 1 回「年商 10 億を叶える経営塾」開催（伊佐市）

地元事業者が“自ら稼ぎ地域を活性化させる”ことを目指すために、経営力向上に直接寄与するワークショップ方式の経営塾を開催した。伊佐市・さつま町の若手事業者を中心に 18 名が参加者した。講師は、代表の坂元正照と、中小企業大学校や商工会議所などの講師としても評価の高い㈱フェアウィンドの中井氏を迎えて行い、好評のうちに終了した。

※ 1：起業、創業の相談や支援

平成 30 年 1 月 13 日 曾木の滝とその周辺里山観光コースの開発（伊佐市）

自然を活かした体験型観光メニュー開発の一環として、羽月校区協議会、フットパス協議会、自治体関係者らとフットパスコースの現地調査に参加した。

野草・薬草を活用した健康まちづくり構想に包括されるウェルネスツーリズム計画の策定にむけた取組みである。

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 30 年 2 月 3 日 第 3 回世界一のやさしい市開催（大阪府堺市）

伊佐・さつまの特産品や加工品を、製造者自らが都市圏の消費者と対面販売をする物産展「やさしい市」を開催。本取組みは、伊佐・さつまの事業者の稼ぐ力を向上させることを目的とし「商人を育てる」というテーマで実施。伊佐市・さつま町から 6 名が参加した。また、参加は出来ずとも商品の出品をした事業者もあり、6 次化にむけた商品開発、マーケティングの機会としても本イベントを提供した。また同エリアのプロモーションも行っている。

※ 1：大阪府下で伊佐・さつまの特産品を販売する物産展

※ 2：起業、創業の相談や支援

※ 2：6 次産業化の推進

※ 2：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーション

平成 30 年 2 月 25 日 おばあちゃんの薬箱 伊佐薬草の杜キックオフ開催（伊佐市）

「世界一やさしいまち 伊佐・さつま」という地域ブランディングを推進するために、からだにやさしい事業モデルを、同エリアの住民に広く実感していただき、共にまちおこしをしていくために呼びかけを行う場として企画した。当日は、雨ながら約 300 名の参加者が集まり、非常に好評であった。またそれに伴うメディアへの露出により、同取組みを広げる効果は非常に高まったイベントとなった。

※ 1：川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーションに向けた活動

※ 1：やさしい取り組みの実践・支援

平成 30 年 3 月 6 日 「年商 10 億を叶える経営塾」開催（さつま町）

地元事業者が“自ら稼ぎ地域を活性化させる”ことを目指すために、経営力向上に直接寄与するワークショップ方式の経営塾を開催した。伊佐市・さつま町の若手事業者を中心に 14 名が参加者した。講師は、代表の坂元正照と、中小企業大学校や商工会議所などの講師としても評価の高い㈱フェアウィンドの中井氏を迎えて行い、好評のうちに終了した。

※ 1 : 起業、創業の相談や支援

平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月 31 日 観光マーケティングにおける各種活動（東京都、大阪府、福岡県、鹿児島県）

JTB 西日本、㈱読売旅行、㈱浪速観光開発社（旅行代理店）、㈱ニワダネットワーク（広告代理店）、㈱アドバンクコミュニケーションズ（広告代理店）との連携等により、グリーンツーリズムやアンマッチロケーションツーリズムに対するマーケティングを行った。また都市部の企業向けに伊佐・さつまエリアのプロモーションを行い、団体旅行の呼び込みを行った。いくつかの商談成立により団体旅行が実現している。

平成 30 年 1 月 31 日 観光商談会「観光マッチング 2018～観光 de 九州～」参加し、一般的な観光紹介だけでなく、体験型メニューの提案を行い、実績に繋げるための営業活動を実施した。また、㈱西日本鉄道、㈱西鉄旅行や、㈱冒険の森など営業活動により商談を行い、今後の協力関係、プロモーションの道筋を確立した。

その他、上述のインバウンド・ジャパン 2017 への参加を皮切りに、曾木の滝公園内の外国語メニュー対応や外国人向けの免税システムの導入などのインバウンド対策を行った。

※ 1 : 川内川を活用した各種ツーリズム商品のプロモーションに向けた活動

平成 30 年 2 月 5 日 わかやま産品商談会参加（大阪市）

6 次化産業の推進の支援業務のため、ジビエや梅という共通の資源がある和歌山県の取り組みを視察した。本視察で得たものを、他の 6 次産業化推進事業に活かすものである。

※ 2 : 6 次産業化推進のための支援事業の活動

平成 30 年 3 月 5 日～12 日 黒豚を使った新商品開発会議（大阪府堺市）

増元黒豚農場など、黒豚という一級資源を持ちながら活かしきれていない事業者に 6 次産業化や経営の活性化を図るために、調理部門をもつセルビスグループにて商品開発を行った。前述の第 2 回世界一やさしい市でスタートした黒豚の商品開発を、セルビスグループ内で行い、伊佐・さつまへと展開していく予定にしている。

※ 2 : 6 次産業化推進のための支援事業の活動

平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月 30 日 セルビスグループ共栄会所属の 8 社社長による新規事業開発委員会活動（大阪府堺市）

毎月（各月の日程：平成 29 年 5 月 24 日、6 月 21 日、7 月 26 日、8 月 23 日、9 月 27 日、10 月 25 日、11 月 22 日、12 月 20 日、平成 30 年 1 月 23 日、2 月 21 日、3 月 30 日）委員会を開催し、伊佐・さつまの地域経済活性化に向けた対策について協議している。

※ 2 : 6 次産業化推進のための支援事業の活動

※ 2 : やさしい取り組みの実践支援

※ 2 : グランドビジョンの作成

※ 2 : 大阪府下で伊佐・さつまの特産品を販売する物産展

平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月 30 日 （株）やさしいまちのウェブサイトの運営管理およびコンテンツの追加、保守管理、E C サイトオープンに向けた条件検討の実施（伊佐市、大阪府堺市）

（株）やさしいまちのウェブサイトの機能を随時更新管理し、また年間のレンタルサーバーの契約更新を含む運営管理、保守管理を行った。またコンテンツの追加を行った。これらは、地元の「やさしい」スポットを取材し、記事掲載までを実施している。E C サイトは、オープンに向けた運用方針の策定と市場調査を行い、今後の管理体制の構築（クロネコヤマトと契約）を行った。また、イベント等では、随時トップページでの告知や S N S との連動を含む広告の表示を行った。

※ 1 : サイト運営管理費

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業取組みについて

【平成 30 年度】

◆ 地方創生推進交付金（国：50%、市町 50%）

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業 <14,000 千円>

総事業費 28,000 千円（伊佐市 14,000 千円、さつま町 14,000 千円）※ 広域連携事業
： 負担（国 14,000 千円、伊佐市 7,000 千円、さつま町 7,000 千円）

○ イベント経費 4,000 千円

- ・ 伊佐・さつまの魅力を発信するイベント：2,000 千円
伊佐・さつまの特産品の販売、PRをする物産イベント、伊佐さつまのファン獲得のためのイベント、菓草シンポジウムの誘致など
- ・ 地域産業活性化推進につながる事業者交流会等の各種イベント

○ プロモーション経費 6,500 千円

- ・ 各種ツーリズムの開発・プロモーション経費：2,700 千円
川内川を活用した各種ツーリズム商品、6 次化商品開発とグリーンツーリズムによる観光商品の開発、ヘルスツーリズムの開発
- ・ 交流人口・宿泊者数増加に向けた施策の開発と実施に係る経費：2,000 千円
ファンクラブシステムの構築・推進
- ・ サイト運営管理費 1,200 千円
- ・ モンベル・フレンドエリア年会費 600 千円

○ 人材育成セミナー経費 4,500 千円

- ・ 6 次産業化の推進 2,000 千円
- ・ やさしい取組みの実践・支援 1,500 千円
- ・ 起業・創業の相談・支援 1,000 千円

○ 調査・コンサルティング経費 3,000 千円

- ・ 川内川流域の観光マーケティング調査 1,000 千円
- ・ コンサルティング業務委託 2,000 千円

○ 上記事業実施のためのDMOスタッフ人件費 7,000 千円

○ DMO事務所運営経費 3,000 千円

	H29年度	決算額(千円)	H30年度	予算(千円)	H26	H27	H28	H29	H30	H31
基本目標Ⅰ【交流人口の増加から定住人口を増やす】										
【成果指標】 総交流人口 平成31年度に70万人 (平成26年度61万人)					61万人 観光客+宿泊客数+ツーリズム 610,233	66万人 観光客+宿泊客数+ツーリズム 659,935	64万人 観光客+宿泊客数+ツーリズム 638,299	65万人 観光客+宿泊客数+ツーリズム 653,034		
具体的な施策① 自然の中で体験・感動できる新たなアクティビティ（クライミング・ジップライン等）の施設整備 【重要業績評価指標／KPI】 新たなアクティビティの利用者数 開業後に年間1万人	カヌー艇庫整備		カヌー艇購入 スモールドラゴン艇購入		—	—	—	—		
具体的な施策② キャンプ場などを活用したアウトドアのメッカとしての宿泊施設整備に関する調査・検討 【重要業績評価指標／KPI】 宿泊者数 平成31年に3.8万人 (平成26年3.4万人)			DMOによる民泊施設検討(古民家)		RVパーク整備 3.4万人 宿泊者数	ホテル可能性調査 3.9万人 宿泊客数+ツーリズム 38,600	2.9万人 宿泊客数+ツーリズム 28,943	2.8万人 宿泊客数+ツーリズム 28,268		
具体的な施策③ 農林地を活用した反復型グリーンツーリズムの導入 【重要業績評価指標／KPI】 ツーリズム観光客数 平成31年度に800人 (平成26年度521人)	伊佐地区ツーリズム協会補助 竹林整備	270 2,916	伊佐地区ツーリズム協会補助 竹林整備	300 2,550	521人	692人	309人 熊本地震影響	176人		
具体的な施策④ 他自治体等との連携による広域的なツーリズム促進機関の設置 検討と効果的かつ効果的な情報発信 【重要業績評価指標／KPI】 新規またはリニューアルしたイベントの開催数 平成31年度までに3以上	自然体験型DMO関係補助【交付金】 観光ボランティアガイド運営補助	14,936 200	自然体験型DMO関係補助【交付金】 観光ボランティアガイド運営補助	15,100 200	—	—	2 アイスワールト、屋台村	1 薬草の杜		
具体的な施策⑤ インバウンド対応のためのWi-Fi環境の整備 【重要業績評価指標／KPI】 観光地や公共施設などのWi-Fi環境の整備箇所数 平成31年度までに33箇所	曾木の滝公園Wi-Fi設置	899			—	—	—	1箇所		
基本目標Ⅱ【教育環境の充実】										
【成果指標】 伊佐市内の高校への入学人数 平成31年度に170人 (平成27年度146人)						146人	173人 81、73、19	172人 84、66、22	151人 78、54、19	
具体的な施策⑥ 高校生も総合戦略の企画などに参加する 【重要業績評価指標／KPI】 総合戦略の企画づくりなどに参加した高校生の延べ人数 平成31年度に500人	中高生連携事業(文化交流) 魅力ある高校づくり補助金 DMOビジョン策定アンケート	4,224 3,000	中高生連携事業(文化交流) 魅力ある高校づくり補助金 高校生と市長の対談	1,933 3,000		150人				

	H29年度 決算額(千円)	H30年度 予算(千円)	H26	H27	H28	H29	H30	H31
基本目標Ⅲ【6次産業化の推進】(しごとづくり)								
【成果指標】 6次産業化に取り組む事業者数 平成31年度に30者				2者	3者	2者		
具体的な施策⑦ 「ピザのまち」宣言による新たな伊佐ブランドの確立と農林産物の消費促進および窯作り、薪利用の推進による新産業の創出 【重要業績評価指標／KPI】 公共施設や事業所におけるピザ窯の設置数 平成31年度までに20箇所	移動式ピザ窯購入 1,100		5箇所	1箇所	— 移動式ピザ窯	7箇所		
具体的な施策⑧ 竹材を活用したビジネスの展開 【重要業績評価指標／KPI】 竹材の買い取り量 平成31年度に920トン (平成27年度450トン)	竹林整備(再) 2,916 竹材の買取価格助成 600	竹林整備(再) 2,550 竹材活用による加工研究 2,900 竹材の買取価格助成 1,000		512t	361t 4～2月	300t		
具体的な施策⑨ 消費者を巻き込んだ新たな「伊佐米」のあり方の検討 【重要業績評価指標／KPI】 無(減)農産物のコメ作りへの取組み件数 平成31年度に10者		タッチザジャパン参加(台湾)		5者	9者	9者		
具体的な施策⑩ コミュニティ拠点でのカフェ、食堂、食材販売など食関連の新サービス事業の展開と市内外への情報発信 【重要業績評価指標／KPI】 新サービス事業に取り組むコミュニティ拠点の数 平成31年度までに20箇所	6次産業化支援事業補助金 1,087 市街地商店街活性化事業(空き店舗活用) 3,000	起業チャレンジ支援事業補助金 20,000						
基本目標Ⅳ【健幸づくりスポーツの推進】(まちづくり)								
【成果指標】 目的を持ってスポーツに取り組んでいる市民の割合 平成31年度に31.0% (平成26年度25.2%)			25.2%					
具体的な施策⑪ 伊佐市のシンボリックスポーツや文化(カヌー、ラグビー、バスケットボール、車椅子バスケット、剣道、ダンス)の拠点施設の整備 【重要業績評価指標／KPI】 スポーツや文化の拠点施設の整備(新築・リフォーム)数 平成31年度までに10箇所	カヌー艇庫建設・トレーニング器具(再) 237,942 投てき設備整備 4,467	カヌー振興(入門艇、体験)(再) 4,247 スモールドラゴン艇購入		1箇所	— なんちゅう	1箇所 艇庫	1箇所	
具体的な施策⑫ 伊佐市のシンボリックスポーツや文化の大会実施や合宿誘致、選手の強化・輩出、ボランティア等の育成 【重要業績評価指標／KPI】 スポーツ大会や合宿誘致、選手の強化・輩出、ボランティア等の育成事業の取組み件数平成31年度までに200件	ドラゴンフェスタ実施補助 450 カヌー教室開催 23 レブナイズとの協定	まちぶんプロジェクト小説ワークショップ 鹿児島ユナイテッドサッカー教室 540 ドラゴンフェスタ実施補助 450 スモールドラゴンボートレース 300 カヌー振興(入門艇、体験)(再) 4,247 スモールドラゴン艇購入(再) 370 スポーツ交流事業(合宿食事メニュー) 370						
具体的な施策⑬ スポーツやアウトドア、健康に関連した企業との連携、誘致 【重要業績評価指標／KPI】 連携、誘致する企業数 平成31年度までに10社	モンベルフレンドエリア会員(DMO)	モンベルフレンドエリア会員(DMO)						

		H29年度	決算額(千円)	H30年度	予算(千円)	H26	H27	H28	H29	H30	H31
基本目標Ⅳ【健幸づくりスポーツの推進】(まちづくり)											
具体的な施策⑭ 子どもから高齢者まで取り組める市民健幸体操の開発推進 【重要業績評価指標／KPI】 市民健幸体操の周知活動の開催数 平成31年度に20回											
	KOBA式体幹トレーニング(小学校、高齢者) 勤労世代健康づくりポイントアップ事業	24 219	KOBA式体幹トレーニング(小学校、高齢者) 勤労世代健康づくりポイントアップ事業	168 499							
具体的な施策⑮ 若者への伝承を生きがいにしつつ健幸づくりに取り組むかっこいい高齢者を支援 【重要業績評価指標／KPI】 生きがいを有して生活している高齢者の割合 平成31年度に84.0% (平成26年度82.7%)											
	高齢者活用・現役世代サポート事業補助	3,800	高齢者活用・現役世代サポート事業補助	3,800							
	脳卒中予防教室	117	脳卒中予防教室	224							
	高齢者元気度アップ・ポイント事業 高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業	275 22	高齢者元気度アップ・ポイント事業 高齢者元気度アップ地域包括ケア推進事業	401 260	82.7%						
基本目標Ⅴ【安心して子育てできるまち】(まちづくり)											
【成果指標】											
出生数 平成28年から31年の4年間の合計で800人						203人	186人	157人	190人		
具体的な施策⑯ 「いさえん」などの既存の出会いの場の創出事業を官民連携で推進することで拡充 【重要業績評価指標／KPI】 出会いの場の開催件数 平成31年度までに20回以上											
	屋台村を活用したまちの賑わい事業	1,000	屋台村を活用したまちの賑わい事業	1,000				7回	3回 応募ない回あり		
具体的な施策⑰ 廃校を活用した子育て交流拠点施設(伊佐市総合交流拠点施設「e-Gaなんちゅう」)での伊佐独自の教育プログラム(出身著名人を活用したセミナー、和紙や窯作り、薪割り、ツリーハウスなどのものづくり体験、山林探検ツアーなど)の実践 【重要業績評価指標／KPI】 交流拠点施設での伊佐独自の教育プログラムの開催件数 平成31年度までに100回以上											
	総合交流拠点施設管理運営 地方創生推進事業(子育て)	7,013 2,600	総合交流拠点施設管理運営 地方創生推進事業(子育て)	6,881 1,800				—	25回	21回	
具体的な施策⑱ 医療・福祉・介護施設での体験授業やCCRCなどの整備を通じて介護人材の確保 【重要業績評価指標／KPI】 医療・介護分野の有効求人倍率 平成31年度までに均衡状態(倍率1.0) (平成27年9月の有効求人倍率1.73)											
	地域包括ケアシステム		地域包括ケアシステム				1.73	2.46	2.36		
具体的な施策⑲ 空家等を活用した新婚家庭や新規就労者などの定住促進のための支援制度の拡充 【重要業績評価指標／KPI】 空家等に対する助成制度の利用件数 平成31年度までに50件											
	木造住宅整備促進事業	25,218									
	市街地商店街活性化事業(空き店舗活用 再)	3,000			3件	2件	2件	3件			
			移住住み替え促進事業	20,000	—	—	—	—			
			起業チャレンジ支援事業補助金(再)	20,000	—	—	—	—			
	危険廃屋解体撤去 空家バンクホームページ作成	4,441 65	危険廃屋解体撤去 空家バンク運営		4件 —	11件 —	22件 —	17件 14件登録			

日時：平成 30 年 8 月 27 日（月）14 時 00 分～15 時 38 分

場所：伊佐市役所大口庁舎 2 階 大会議室

- 1 開会
- 2 辞令交付
4 名辞令交付
- 3 会長あいさつ 社会福祉協議会 会長 周防原一雄
- 4 議事

まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び意見交換

(1) 地方創生推進交付金について

川内川流域にける「やさしいまち」DMO観光推進事業

- ・平成 29 年度実施分の事業報告及び効果検証
- ・平成 30 年度事業の取組み

伊佐 P R 課

配付資料①：川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業取組みについて【H29 年度】

配付資料②：実績報告

配付資料③：川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業取組みについて【H30 年度】

< 審議（質疑応答を含む） >

委員：薬草の杜はどれくらいで完成するか。

市：野草を使ったまちづくりで、モデルになるような場所と位置付けている。何年かで仕上げるというよりは、常に進化させながら（薬草・野草）育てていくことを考えている。大阪からも沢山の方に植栽をして頂いた。今まで、曾木発電所遺構を観て終わりだったのを、回遊できるようなものを作ろうと取組まれている所である。いつまでに終わるというものではなく、市民の皆さんが参加をして頂くような仕組みをつくりたいと考えている。

委員：薬草の杜を整備するだけでなく、店頭での販売等の展開はないか。

市：薬草の杜はシンボリックなものであり、その場所だけを整備して終わりではない。薬草の杜は、頭からつま先までそれぞれ効用のある野草を順路として設計されている。それを見られた方が、例えば、内臓に効果のある野草の知識を学び、その野草を自分で採取されたり植栽されたりしたものを食する場合は、加工する必要がある。野草を加工できる施設の整備も考えられているようだ。薬草の杜は、野草の効用を学ぶ場であり、その知識を普段の生活に取り入れて頂くことを考えられている。また、野草の知識を得られた方が、他所の人にも伝え、訪れた方にも提供していく、そのような仕組みを想定されている。

委員：カフェとかレストラン、曾木ノ滝のお店で薬草を使用する予定はないのか。

市：薬草・野草を提供できるような施設を検討されている。商品の販売が目的ではなく、訪れた方が薬草・野草を体験して頂く場を想定されている。地元の方が、薬草・野草を使って起業したい方がいれば、それを支援することも考えられている。

委員：いつ頃になるか。

市：施設整備について具体的な調査等を近いうちにされるので、そう遠くない将来で実現できるかもしれない。

委員：モンベルフレンドエリア会員の活用は。加入期間は。

市：モンベルの会員は約 80 万人いる。会報に、エリアになっている地域の情報やイベント情報が掲載されたり、モンベルが開催するイベントに出店できたりする。会報は年 1 回と、イベント情報は季節ごとに発刊される。全国各地でモンベルフェアが開催される。情報発信として有効である。

地方創生推進交付金は、平成 29 年度～平成 31 年度に期間で交付される。平成 32 年以降は、(株) やさしいまちが稼ぐ力を身につけて自走してもらうことになる。その中で、モンベルフレンドエリア会員になっていることに効果があれば、継続されと考えられる。

委員：観光商談会「観光マッチング 2018～観光 de 九州」で、一般的な観光紹介だけではなく、体験型メニューの提案を行いとあるが、どのような提案を行ったか。また、免税対応の状況は。(インバウンド対応)

市：体験メニューは、農業体験、アウトドア（川遊び）、野草の採取など。また、この地域を訪れて、2～3 日滞在してもらい、健康になってもらう、ヘルスツーリズムの仕組みづくりを検討している。

免税システムについては、平成 30 年度に曾木ノ滝周辺の店舗で導入する。

委員：やさしい市への出品状況は。

市：伊佐、さつま合わせて、2,579 点の商品を出品している。

委員：(株) やさしいまちが収集した情報は、どのようにして共有しているか。

市：定期的に、会を開催している。

委員：薬草の杜は、初めて訪れた人でもその効能についてわかるような仕組みになっているか。案内する人が常駐していないと思うが。また、薬草を使った商品化についてはどう考えているか。

市：薬草が植栽してあり、その前に札が立ててある。その札は、薬草学会が承認しているものであり、効能などを説明した内容である。ご指摘のあったとおり、訪れた方に案内できる仕組みが出来ないか検討している。飛騨市に研修視察に行ったが、薬草の森（朝霧の森）を案内する方がいらっしゃる。そういった、案内人を育成することが必要と考えている。

商品化については、飛騨市は、製薬会社が立地しており、そこでのコラボレーションをしているようだ。しかし、漢方薬の原料は、概ね中国から輸入している。日本の原料を使っているのは一部である。原料価格は中国のものが安価であり、商品化をすることは難しいと分析されている。なので、市民の方が、日常生活の中でどのように活かすかという所から考えていくことになる。やさしいまちがコンセプト

トなので、やさしい薬を作る“まち”というよりは、やさしいことを教えてもらえる“まち”にしたい。市民の方々にもご理解をいただきながら、訪れた方々にそのように接してもらい、そのような大きなテーマで活動されている。

委員：モンベルフレンドフェアで「カヌーのまち」をアピールしたとあるが、カヌー関係者とは連携できているのか。

市：具体的なカヌーの活用については、今後カヌー関係者と連携を進めたい。イメージとして「カヌーのまち」としての情報発信をした。

委員：ウェブサイトの更新はどこでしているか。

市：(株) やさしいまちで管理している。

委員：飛騨市は、薬草を使った地域おこしをされているが、伊佐市・さつま町に合った薬草を使った地域おこしや、薬草の知識を持った人材の育成、他所からの集客の手法、旅館等との連携、市民の健康へも役立てられるような取組みを期待する。

(2)まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- ・具体的な施策の取組み状況について

- 成果指標、K P I の達成状況

企画政策課政策調整係

配付資料④創生総合戦略取組み状況について

委員：具体的な施策②のK P I である宿泊者数が平成 27 年度の 3.9 万人に比べ、平成 28・29 年度が 1 万人減っているが原因は。

市：平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の影響が考えられる。また、関東、関西からの修学旅行が減っている。

委員：医療・福祉（介護）有効求人倍率（2.36）は、人材が不足していることになるのか。

⇒その分野に希望者が少ない。

委員：伊佐の介護保険事業を担う人が少なくなると大いに心配。

委員：介護報酬が減っているので、そこで働く人に高い給料を払えない。外国の方の労働力でカバーするケースが増えている。

委員：国は、介護保険事業の持続可能な制度と言うが、財政的に持続可能という意識が強くて、地域の実態として、それを担う人材が少なくなっている。介護報酬が上がるより人材が不足することの方が問題である。介護の人材を確保する施策を考えていく必要がある。

委員：介護報酬を抑制するために、国は在宅介護にシフトしている。老々介護や介護離職の問題がある。

委員：基本目標Ⅱ教育環境の充実の成果指標は達成されている状況だが、要因は。

市：平成 26 年度に創設した、大学進学奨励金や予備校と連携した進学指導事業、魅力ある高校づくり補助金などの施策を展開した。伊佐市内、周辺の中学生の人数により伊佐市内の高校への入学者数は左右される。平成 30 年度は、中学生の人数が少なかった。新たな事業として、大口高校に学習支援として Wi-Fi 環境整備やタブレット 30 台を補助している。個々の目標に合わせた自学習にも活用できる大手学習メーカーのクラウドサービスを利用し学力向上を図る。

委員：雇用が重要になると思うが、企業誘致の活動や職場の確保などの計画はないのか。

市：企画政策課を中心に企業誘致活動はしているが、現状としては誘致に至っていない。企業誘致となると容易ではないので、伊佐市内で起業をされる方を支援する施策として、本年度から起業チャレンジ支援事業補助金を創設している。また、市内雇用の促進として、市内企業ガイダンスを高校生向けに実施している。市内企業も、職種によっては人材を欲している企業もあるが、学生の希望と企業側とのマッチングをする場がない、学生が地元にある企業のことを知らないということもあったので実施している。

企業誘致についても、地理的な要因もあり実現に至っていない。そのような中で、地元にある企業を守ることも大事であり、その企業が工場などを増設する場合も企業誘致と同様の支援制度がある。

また、小さなビジネス、新しいビジネスを支援することが出来ないかを検討している中で、商工会も創業支援セミナーを開講して頂いている。それに対して、行政も起業を支援する制度（起業チャレンジ支援事業補助）を創設した所であり、企業誘致や市内企業ガイダンス、起業支援と様々な形での雇用対策に取り組んでいる。

委員：6 次産業化に取り組んでいる事業者の内訳は。また、「いさえん」の状況は。

市：平成 27 年度は、牧場で搾乳した牛乳を利用したソフトクリームの製造、自社製の肉を使用したバーベキュー用設備。平成 28 年度は、野菜を使って漬物の製造、玄米を原料とした米粉パン製造、野菜を使うジャムや乾燥野菜の製造。平成 29 年度は、有機野菜を使ったふりかけ製造、米加工品の製造。

いさえんは、昨年度は、3 回実施している。2 月に「こたつで婚活」を予定していたが、女性の応募がなかったことから開催出来なかった。いさえんで知り合い結婚された方もいる。

課題は、女性参加者を確保することで、伊佐市周辺の市町からも参加してもらうように、情報発信している。

5 その他

6 閉会